参考　文部科学省　　国立教育政策研究所
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校生活（令和２年３月）

目標ー指導ー評価の一体化のための学習評価

小 学 校 生 活 の ポ イ ン ト

小学校生活における学習評価について、単元の目標及び「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた、評価規準の作成のポイント等について、一連の流れを説明します。

1　小学校生活科の「内容のまとまり」

小学校生活科における「内容のまとまり」は、学習指導要領に示された９つの内容の一つ一つと考えることができます。

	「内容のまとまり」
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	内容（１）　学校と生活
	内容（２）　家庭と生活
	内容（３）　地域と生活
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	内容（４）　公共物や公共施設の利用
	内容（５）　季節の変化と生活
	内容（６）　自然や物を使った遊び
	内容（７）　動植物の飼育・栽培
	内容（８）　生活の出来事の伝え合い
自分自身の生活や成長に関する内容	内容（９）　自分の成長

2　小学校生活科における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

第１学年及び第２学年の内容（１）を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明します。

（１）学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認します。

【小学校学習指導要領　第２章　第５節　生活「第１　目標」】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）知識及び技能	（２）思考力，判断力，表現力等	（３）学びに向かう力，人間性等
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

（小学校学習指導要領解説生活編Ｐ８）

【改善等通知　別紙４　生活（１）評価の観点及びその趣旨＜小学校　生活＞】

（１）知識・技能	（２）思考・判断・表現	（３）主体的に学習に取り組む態度
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

（改善等通知　別紙４　Ｐ１３）

（２）「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認します。

内容（１）
学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

生活科における「内容のまとまり」の記述には、以下の４つの要素が構造的に組み込まれています。これらを踏まえて、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

（実線）　・・・「知識及び技能の基礎」に関すること
（波線）　・・・「思考力，判断力，表現力等の基礎」に関すること
（破線）　・・・「学びに向かう力，人間性等」に関すること
（太実線）　・・・児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等

生活科における各内容は、「～を通して（具体的な活動や体験）、～ができ（思考力、判断力、表現力等の基礎）、～が分かり・～に気付き（知識及び技能の基礎）、～したりしようとする（学びに向かう力、人間性等）」のように構成されています。
これは、低学年の児童に、よき生活者としての資質・能力を育成していくためには、実際に対象に触れ、活動することを通して、対象について感じ、考え、行為していくとともに、その活動によって、対象や自分自身への気付きが生まれ、それらが相まって学びに向かう力を安定的で持続的な態度として育成し、確かな行動へと結び付けていくことを重視しているためです。各観点の評価規準の作成に当たっては、このような構造を踏まえて作成することが大切です。

（３）【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

①「知識・技能」のポイント

実際に行われる学習活動（太実線）に続き、「実線」部分の記載事項の文末を、「分かる」から「分かっている」とすることにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能です。

②「思考・判断・表現」のポイント

実際に行われる学習活動（太実線）に続き、「波線」部分の記載事項の文末を、「考えることができる」から「考えている」とすることにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能です。

③「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

実際に行われる学習活動（太実線）に続き、「破線」部分の記載事項の文末を、「したりしようとする」から「したりしようとしている」とすることにより、「内容のまとまり」に対応する評価規準を作成することが可能です。

（４）学習指導要領の「内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
学習指導要領の内容	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができる。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準（例）	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かっている。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。

3　「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

（１）単元の評価規準の作成のポイント

「内容のまとまり」を踏まえて、以下に示した生活科の単元の特徴を大切にし、単元計画を作成することが求められます。

○児童が、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現していく必然性のある学習活動で構成する。
○具体的な活動や体験を行い、気付きを交流したり活動を振り返ったりする中に、児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動が位置付く。
○学習活動を行う中で、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応する必要がある。
○それぞれの学校や地域の人々、社会及び自然に関する特徴を把握し、そのよさや可能性を生かす。

このような生活科の単元の特徴を大切にしながら、２年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを構想し、妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫した単元計画を作成することが求められます。

生活科において単元を作成するに当たっては、１内容で１単元を構成する場合と、複数の内容で１単元を構成する場合が考えられます。単元の目標は、単元を構成する内容に基づき、学習指導要領及び学習指導要領解説生活編における各内容の記載事項を踏まえるとともに、具体的な学習対象に即して作成することになります。複数の内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように気を付けなければなりません。

なお、幼児期までの学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないことから、生活科においては教科目標に示した資質・能力の末尾が「の基礎」となっています。このことを踏まえ、単元の目標の作成に当たっては、育成する資質・能力を総括的に示すなどの工夫が必要になります。

（２）単元の目標を作成する手順

①　単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認します。
②　①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成します。

（３）１内容（第２学年　内容７「動植物の飼育・栽培」）で単元を構成した場合の作成例

①　単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認します。
内容（７）「動植物の飼育・栽培」
　動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする。

②　①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成します。
単元の目標
　モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付き、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

（４）単元の評価規準、小単元における評価規準の作成の手順
　生活科は、児童が具体的な活動や体験を通して、あるいはその前後を含む学習の過程において、文脈に即して学んでいくことから、評価は、活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われます。
　そのためにも、単元の評価規準及び一連の具体的な学習活動のまとまりである小単元における評価規準を具体的な児童の姿として作成することが大切です。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の小学校生活の「巻末資料」に例が記載されています。

（５）単元の評価規準及び小単元の評価規準の作成の手順（１内容の例）

①　単元の目標を確認します。
②　単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成します。
③　学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を参考に、小単元の評価規準を作成します。

（６）第２学年　内容７「動植物の飼育・栽培」に基づいた作成の手順（１内容の例）

①　単元の目標を確認します。

〔単元の目標〕
　モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付き、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

②　単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。

③　学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を参考に、小単元の評価規準を作成します。

学習指導要領解説生活編における内容（７）に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとは、動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気付き、生命をもっていることやその大切さに気付くことである。	**それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ**とは、動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行為することである。	**生き物への親しみをもち、大切にしようとする**とは、生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして世話しようとすることである。

具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ・育てている動植物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ・生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ・生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。 ・動植物の飼育・栽培において、その特徴に合わせた適切な仕方で世話をしている。	・動植物の特徴などを意識しながら、育ててみたい動植物を選んだり決めたりしている。 ・動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に着目して、観察したり世話をしたりしている。 ・動植物の立場に立って関わり方を見直しながら、世話をしている。 ・育ててきた動植物のことや心を寄せて世話をしてきたことなどを振り返り、表現している。	・よりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。 ・動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に応じて、世話をしようとしている。 ・動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に応じて、世話をしようとしている。 ・生き物に親しみや愛着をもったり、自分の関わりが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。

学習活動に即して小単元の評価規準を作成します

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。
小単元における評価規準	1	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。		①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	2	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットを適切な仕方で世話をしている。	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
	3	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

※単元全体を俯瞰して、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行います。

4　観点別学習状況の評価のポイント

（1）知識・技能

生活科では、思いや願いの実現に向けた活動や体験の過程において気付いたことについて評価を行うとともに、それらについて、「無自覚から自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」などのように気付きの質が高まっているかについて評価します。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意します。

（2）思考・判断・表現

生活科では、思いや願いの実現に向けて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの思考が多様な学習活動の中で働いているかについて評価します。

（3）主体的に学習に取り組む態度

生活科では、思いや願いの実現に粘り強く向かおうとしているかどうか（粘り強さ）、状況に応じて自ら働き掛けようとしているかどうか（学習の調整）、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、安定的に行おうとしているかどうか（実感や自信）という意思的な側面について評価します。

5　観点別学習状況の評価の総括

単元ごとの観点別の評価を総括するには、チェックリストなどの記録簿にある記録に基づいて判断した「小単元における評価規準」の評価結果を足し合わせていく方法が考えられます。また、「小単元における評価規準」に重み付けをして集計する方法も考えられます。いずれの場合にも、「単元の評価規準」に照らし合わせたり、単元における学習の位置付け、学習活動の長短及び実施段階などを勘案したりして、「小単元における評価規準」による評価結果に軽重をかけることが考えられます。

「小単元における評価規準」は、「単元の評価規準」を分割して設定したものです。したがって、「小単元における評価規準」の評価結果を集計すれば単元の評価結果が得られると考えられます。一方、行動観察及び学習カードや作品の分析などが中心で、結果や出来栄えよりも活動や体験そのもの、つまり学習の過程が重要となる生活科の評価においては、分割したものを統合するという考えに留まらず、児童の学習状況を「単元の評価規準」に照らし、児童の学習状況の全体像（個人内の成長や多様性）を捉え直してみることも大切です。すなわち、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉える長期にわたる評価も重要です。さらに、授業時間外の児童の姿の変容にも目を向け、評価の対象に加えることが望まれます。